

CONTENTS

- ◆表紙ページ
 - ・もっと便利、もっと安心
 - スマートシティ長井の実現に向けて
- ◆中ページ
 - ・スマートストア(無人店舗)
 - ・デジタル地域通貨ながいコイン
 - ・SIMを活用した子どもの見守り
 - ・有害鳥獣対策
 - ・河川の水位監視
 - ・ドローンの活用・普及
 - ・デジタル人材育成
 - ・長井市のデジタル化推進
- ◆裏表紙ページ
 - ・第3回 Ne-st CUP開催!
 - ・eスポーツスタジオ [Ne-st]

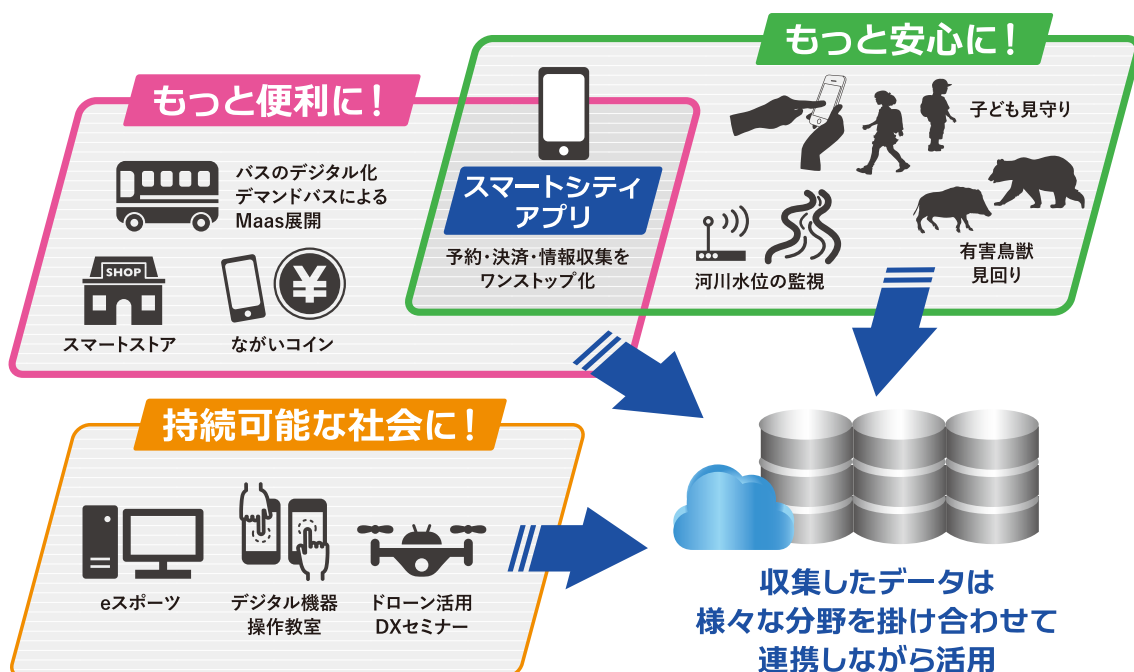
もっと便利、もっと安心 スマートシティ長井の 実現に向けて

長井市では、デジタル技術を活用し、生活の様々な分野における課題解決や地域活性化を試みる「スマートシティ長井」の実現に向けた取り組みを令和3年度から5カ年計画で進めています。

令和3年度から、国のデジタル専門人材派遣制度による人材の派遣を受け、デジタル技術を活用した地域課題の解決手法の検討、実証実験を行い、令和4年度には、これまでの経過をもとに、具体的な取り組みが始まっています。

デジタル技術の活用は、取り組み過程であらゆるデータを取得することが大きな利点です。分野を超えたデータの活用により、これまでにない視点での施策検討や新しい価値の創出が可能となります。「スマートシティ長井」の実現により、生活の利便性や安全性をデジタル技術の活用によって補いながら、収集したデータを活用した新しい事業やビジネスの創出につなげていきます。地域の魅力をそのままに、大都市に負けない利便性と可能性を探り、持続可能でゆとりある安心な暮らしの実現を目指していきます。

分野を超えたデータ連携で 今までにないサービスや価値を創出



令和4年 スマートシティ化に向けた取り組み

新たな施設の誕生や、デジタル技術を活用した新しい取り組みの開始、本格導入に向けたデモ会などを行ってきました。

3月	◎見守り端末を配布 (長井小・西根小・伊佐沢小の希望する児童) ◎eスポーツイベントを開催 ◎スマートストアがオープン (市役所市民交流スペースと伊佐沢コミュニティセンター敷地内)
4月	◎市営バスの利用者情報取得のデジタル化を開始 ◎eスポーツスタジオ「Ne-st」がオープン ◎伊佐沢スマートストア利用促進イベント開催 ◎森・金井神エリアでデマンド交通の実証実験(～7月)
5月	◎ながいコインプレミアムの販売
7月	◎業務用・農業用ドローンデモ会を実施 ◎eスポーツイベントを開催
8月	◎ながいコイン(ながいのまちサポート)を全市民に配布 ◎ながいコイン恒常販売の開始
11月	◎伊佐沢スマートストア利用促進イベント開催 ◎総合防災訓練でのドローンによる要救助者探索デモの実施 ◎ドローンによる橋梁点検・スクールデモイベント開催
12月	◎マイナンバーカード取得促進を図るため、マイナンバーカード取得及び申請した市民にながいを配布

長井を もっと 盛り上げよう!

令和5年3月 開催予定

第3回 Ne-st CUP 開催!



世界中で人気の **APEX LEGENDS**

プロeスポーツプレイヤーによる実況解説!

Ne-stのYouTubeチャンネルで動画配信!

eスポーツとは、Electronic Sportsの略で、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。サッカーや格闘、パズル、レーシングなど様々なジャンルがあり、「一定のルールに則って勝敗を競ったり、楽しさを求める」という点で、eスポーツもスポーツの一種であると言えます。

eスポーツ人口は世界中で増えており、世界大会も開催されています。日本国内でも様々な地方イベントが活性化して人気となっています。

一般的なスポーツは年齢や体格、性別などで分けられますが、eスポーツにその壁はありません。オンラインを通して世界とつながることができる、コミュニケーションツールでもあります。

長井市はなぜeスポーツに積極的なのか?

1 イベント開催による交流の促進

イベントを開催することで、参加者同士の交流が図られます。年齢や性差にとらわれない交流を促すことができ、地域コミュニティの活性化に繋がります。また、参加する選手はもちろん、観戦を目的とする地域外からの集客も期待でき、観光資源と連携した交流人口や関係人口の増加が見込めます。

◆長井市で開催したeスポーツイベント参加者数

	開催日	参加者数
第1回	R4.3.25～3.27	延べ389人
第2回	R4.7.31	延べ223人



2 デジタル社会に必要な人材の育成

地方創生を実現するためにデジタル化は欠かせず、デジタル化に対応できる人材の育成が急務となっています。そこでeスポーツを通じたICT教育の強化や、プログラミング教室、eスポーツセミナーを開催し、人材の育成につなげる取り組みを進めています。さらにeスポーツを通じた国際交流、外国語学習、産学連携などの教育面も期待できます。

◆セミナーなどへの参加者数

イベント	参加者数
プログラミング教室	16人
eスポーツセミナー	27人



3 デジタルに触れるきっかけや健康づくり

eスポーツは、リズムゲームやレーシングゲームなどやり方がわかりやすいものが多く、気軽にデジタルに触れるきっかけにもなります。また、脳の活性化や認知機能低下の予防になるなどの研究結果が発表されています。人と一緒にプレイすることで人や社会とのつながりを持つことができ、健康維持にもつながります。



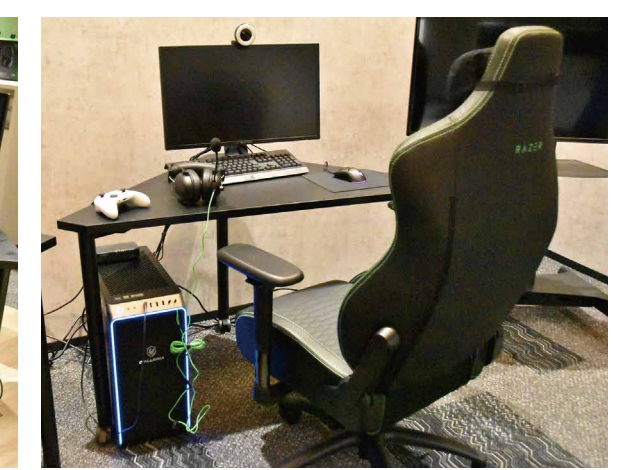
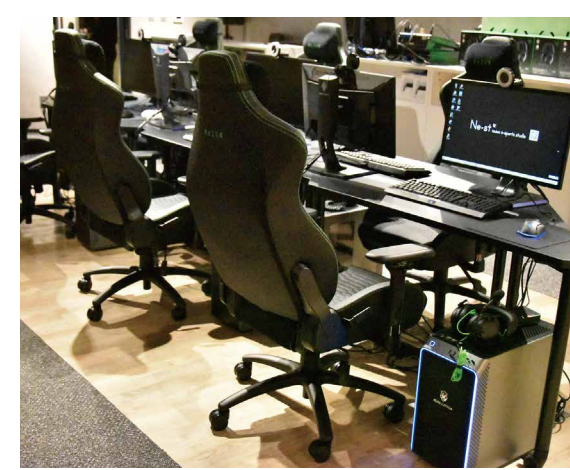
eスポーツスタジオ [Ne-st]

令和4年4月、TASの一部に常設型のeスポーツスタジオ「Ne-st」を開設しました。ゲーミングPC「GALLERIA」などを10台設置し、ゲーム配信やチームによるオンラインプレイを楽しめます。スタッフが常駐しており、初心者や高齢者でも気軽に利用できます。

営業時間
平日/15:00～20:00
土日祝/11:00～19:00

定休日
毎週火曜日、年末年始(臨時休業日有)

詳しい情報はこちら



もっと便利に！

スマートストア (無人店舗)

令和4年3月に、市役所の売店の一部と伊佐沢コミュニティセンター敷地内に、スマートストア(無人店舗)を設置しました。スマホアプリを活用すればレジなしでの決済が可能なか、店舗に貸出用スマートフォンとセルフレジも設置し、スマートフォンを持たない人でも、キャッシュレス決済で利用可能です。

アプリのダウンロードは
こちらから



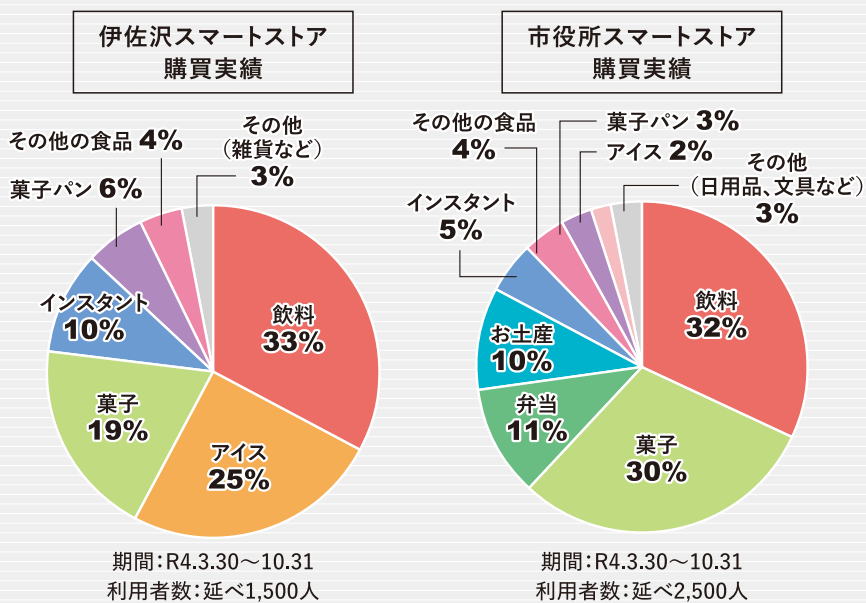
Android



iOS



市役所スマートストア



伊佐沢スマートストアでは30・40代はもちろん、60代から80代以上の人の利用もあり、地域で農業を行う人の“ちょっとした買い物の場”として活用されている傾向が見られました。市役所スマートストアでは、地域外からの来訪者によるお土産購入での利用も見られました。

今後は、購買データを分析しながらニーズを把握したスマートストア限定商品の販売なども検討しており、地域の買物機能を維持確保する手段として利便性の向上を図ります。



11月5〜6日に行われた伊佐沢スマートストアのイベントの様子
より多くの人に利用していただけるよう、気軽に参加できるイベントも開催していきます

スマートストアの利用方法



1 専用アプリを入れたスマートフォンをかざして入店。店舗に貸出用のスマートフォンもあります。



2 店内は、飲み物やお菓子などの最寄品を中心に用意しています。



3 欲しい商品が見つかったら、商品のバーコードをスマートフォンで読み込みます。アプリやセルフレジで決済できます。

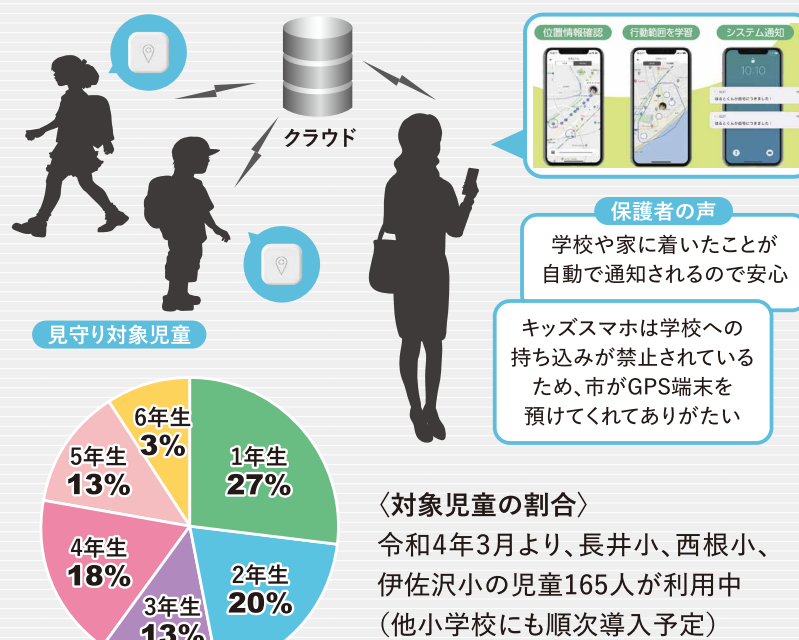


4 店を出るときもスマートフォンをゲートにかざします。

もっと安心に！

SIM※を活用した 子どもの見守り

人口減少、核家族化によって低下している見守り機能を強化するため、長井市内の小学生を対象に、GPS発信端末とスマホアプリを活用した子どもの見守りを行っています。



安心して子育てできる環境づくり

子どもの行動範囲のデータをもとに、有害鳥獣の出没情報や河川監視の情報と掛け合わせることで、より安全な子育て環境に寄与していきます。

※SIM: Subscriber Identity Moduleの略。携帯電話などで使われる利用者の情報(識別番号など)を記録した小型のカードで、電話回線を利用して通話やインターネットといった機能が使えるもの。

もっと安心に！

有害鳥獣対策

有害鳥獣の出没が心配される13カ所にモーションカメラを設置。AIがカメラに映った動物を有害鳥獣か判断し、市の担当者にデータを送信しています。



人的被害・農作物被害への対応

これまで把握できなかった夜間の出没など、現場に行かなくても、有害鳥獣の出没を把握することができ、住民からの通報によらない迅速な対応が可能となりました。今後、ドローンによる追い払いなどの手段も検討していきます。

もっと安心に！

河川の水位監視

まちなかの小河川などに水位を監視するセンサーやカメラを設置し、水位情報を定期的にデータベースに集約しています。



水害発生時の迅速な対応

今後は、水位のリアルタイムな情報をHPでも発信し、情報公開していく予定です。また、蓄積したデータを、溢れやすい河川の把握や情報発信などの災害対策に活用していきます。

持続可能な社会に！

ドローンの活用・普及

農業や建設分野など、生活の様々なシーンでドローンの活用を進めていきます。



実装に向けた動き

デモフライトを通じて、ドローンへの理解促進と活用に向けた動きを進めています。水稲以外の農作物への農業散布など農業における活用拡大のほか、災害対応や橋梁の点検、物資の運搬など、農業以外の分野での活用も広がっていく予定です。

デジタル人材育成

取り組みを進める上で重要となる、市民のデジタル技術に対する理解促進やデジタル人材の確保にもつながるよう、ワーケーションへの取り組み、ドローンの活用・技術者育成、高齢者向けのデジタル機器操作教室などにも取り組んでいます。



長井市のデジタル化推進

「スマートシティ長井実現事業」は今年度で2年目を迎え、生活の様々な分野で安定した運用が進んでいます。一例として、有害鳥獣対策では、従来、住民の皆さんからの通報を受けての出没把握が中心でしたが、モーションカメラの設置により、市の担当者が先行して情報収集できるようになりました。熊が日中全く出沒していないでも、早朝深夜に日々出沒しているという、今まで把握しきれなかった出沒実態のデータも収集できており、今後はデータを活用した対策を実施する予定です。

デジタル技術を活用したあらゆる取り組みや収集したデータを活用し、地域の皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、引き続き、デジタル推進室で地域課題の解決方法の検討や取り組みを推進していきます。



デジタル推進室長 小倉 圭さん
NTT 東日本(東日本電信電話株式会社)